

# さくらんぼ第二保育園 全体的な計画

<b>保育理念</b>	子どもらしい子どもに育てる							
<b>保育方針</b>	人間性を豊かにし、心と体の自立を促す							
<b>保育目標</b> (目指す子ども像)	○生活習慣の自立を目指し、心身ともに健康な子 ○自ら考え、進んで行動する子		○仲間と共に過ごす事を喜び、思いやりのある子 ○物事に感動し、豊かに表現する子		○自分の気持ちを素直に言え、人の話を聞ける子			
<b>年齢区分</b>	乳児	1歳以上3歳未満児		3歳以上児			保育指針に定めるねらい	
<b>クラス区分</b>	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児		
<b>養護</b>	<b>生命の保持</b>	・人への基本的信頼関係が芽生える ・一人一人の生活リズムが整うように配慮する。	・保育士との人間関係が深くなり、愛着関係が育まれるように接する。	・生活や遊びの中で自我が育つような関わりを持つ。 ・気候や季節に応じた体調管理をする。	・基本的な生活習慣を身に付けられるよう援助する。	・運動量が増し、活発に活動できるよう配慮する。	・健康に関心を持ち、生活に必要な習慣を身に付けられるようにする。 ・安全に過ごすことへの意識を高める。	①一人一人の子どもが、快適に生活できるようにする。 ②一人一人の子どもが、健康で安全に過ごせるようにする。 ③一人一人の生理的欲求が、十分に満たされるようにする。 ④一人一人の子どもが健康増進が、積極的に図られるようにする。
	<b>情緒の安定</b>	・一人一人の関わりの中で要求を受け止め、安心感を持って過ごせるようにする。 ・応答的な触れ合いや言葉掛けを大切にしている。	・スキップにより、保育士との関わり心地よさや楽しさを味わい、安心感を持って過ごす。	・子どもの気持ちを受容し、共感しながら継続的な信頼関係を築いていく。	・主体的な活動を促す環境を構成し、探索意欲が高められるように見守る。	・多様な経験を通して自己肯定感を育み、自信や保育士への信頼を獲得する。	・生活リズムや体力に応じた活動内容の調節を図り、休息が取れるようにする。	①一人一人の子どもが、安心感を持って過ごせるようにする。 ②一人一人の子どもが、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする。 ③一人一人の子どもが、周囲から主体として受け止められ主体として育ち、自分の気持ちを育まれていくようにする。 ④一人一人の子どもが心身の疲れが癒されるようにする。
<b>保育</b>	領域 <b>タラス</b>	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	保育指針（幼児期の終わりまでに育ってほしい姿）
	<b>健康</b>	・清潔になることの心地よさを感じる。 ・安全に配慮してもいいながら、体を十分に動かす楽しみを得る。 ・低い歩きや歩行を積極的にを行い、探索活動を楽しむ。	・水分補給や休息の取り方、衣服や室温の調整等、暑い夏、寒い冬を元気に過ごす。 ・感染症対策だけでなく、手洗いを習慣化し、健康で快適に過ごす。	・簡単な集団遊びを楽しんだり、戸外で元気に遊ぶ。	・水分補給を十分にやり、静と動のバランスを取りながら、ゆったりと過ごす。 ・手洗い、うがい、歯磨きの大切さを知り、自分からやろうとする。	・体を十分動かして、簡単なルールのある遊びを楽しむ。 ・気分がよい見通しを持ったりしながら、自分のことは自分で進めようとする。	・健康的に体づくりに関心を持ち、生活のリズムを整えたり、楽しい食べ物にも挑戦したりして、健康的な生活の習慣を身に付ける。 ・園生活を通して、見通しを持って行動する。	●健康な心と体（見通しを持って行動する、心と体の健康のために必要なことができる）
	<b>人間関係</b>	・身近な保育者と関わり、興味や親しみを待つ。 ・信頼関係を育み、人間関係の基礎をつくる。 ・友達と同じ遊びを楽しみ、親しみを感して関わろうとする。	・不安や甘えの気持ちを受け止めてもらい、保育者との触れ合いの中で安心して過ごす。 ・簡単なごっこ遊びを保育者と仲立ちしてもらいながら、友達と一緒に楽しむ。	・保育者や友達と一緒に言葉のやり取りをしながら、簡単なルールのある遊びや模倣遊びを楽しむ。	・保育者と一緒に、自分の思いを伝えることで相手とどうなるか考えるようになる。 ・仲間との関わりの中で、トラブル時に自分の気持ちを伝える。 ・仲間と一つのことをやりとげる楽しさを知る。	・保育者や友達と親しみをもち、気の合った友達と好きな遊びを楽しむ。 ・約束やルールを守りながら自分の意見を伝え、友達の考えも受け入れてイメージを共有し、一緒に遊ぶ。	・友達と関わりながら、異なる考えや思いに気付く。 ・思いや考えを伝え合い、トラブルや困ったことを自分たちで解決していく。	●自立心（幼児教育の中核である非認知能力、身近な環境に主体的に関わった達成感、「頑張った・我慢した・自分がすごいと思えた」経験による自信） ●協調性（協力することの楽しさや面白さ、自分も相手も満足できる） ●道徳性・規範意識の芽生え（思いやりの気持ち、「してよいこと」「悪いこと」の区別、折り合いをつけて一緒に遊ぶ、ルールの理解と必要時） ●社会生活との関わり（人との出会い、触れ合い、社会とのつながり、自分が役に立ちたい）
	<b>環境</b>	・戸外や散歩に行き、様々なものを見たり触れたりする。 ・保育者と一緒に砂遊びや水遊びを楽しむ。 ・遊んだ後は、保育者と一緒に決められた所へ片付ける。	・遊びたいもので満足して遊べるように、発達段階に合った玩具の種類、数、場所を準備する。 ・絵本や紙芝居、歌を通して季節を知らせ、自然のものに触れる機会をつくる。	・身近な自然に興味を持ち、季節を楽しむ。	・保育者に声掛けをしてもいいながら、行事に伸び伸びと参加する。 ・保育者に見守られながら、園庭や公園の遊具で安全に遊ぶ。 ・保育者の声掛けで身辺の汚れに気付く、自分できれいにしようとする。	・日常生活の中で、数、文字、量などに関心を持つ。 ・自然の移り変わりを感しながら、遊びに取り入れて遊ぶ。 ・保育者と一緒に確認しながら、周囲に目を向け安全に意識を向けようとする。	・公共の場での行動の仕方を理解して、ルールを守り気持ちよく生活できるようにする。	●社会生活との関わり ●思考力の芽生え（「なぜだろう」「どうして」、考える、試す） ●自然との関わり・生命尊重（自然に触れる・親しむ・大切にすること、動植物に触れる・大切にすること） ●数量や図形、図形や文字などへの関心・感覚（遊びや生活の中での数量、図形、文字との出会い・必要時）
	<b>言葉</b>	・保育者の声掛けに笑ったり、声を出したりして反応する。 ・好きな絵本を喜んで見たり聞いたりする。 ・保育者の言葉を真似しようとしていたり、表情や指差しなどをしたりする。	・好きな絵本を繰り返し見たり、名称カード遊び等で簡単な言葉の模倣を楽しむ。 ・二語文や多語文が増え、保育者や友達と一緒に会話を楽しくする。	・言葉の使い方を覚え、自分の思いを適切な言葉で伝えようとする。	・話をすること、聞くことの大切さを感じる。 ・友達との関わりを深め、相手の気持ちも考えながら、言葉で伝えたり、行動したりする。 ・ごっこ遊びを通して、生活に必要な言葉を豊かにする。	・絵本や物語に親しみ、言葉に対する感覚を豊かにする。 ・自分の思いや感じたことを言葉にして伝えたり、表現したりする。 ・自分の思いや言葉を伝え、相手の思いを聞くようになる。	・自分の思いや感じたことを言葉にして伝えたり、表現したりする。 ・文字、数、模倣などに興味を持ち、関心をもてる。	●数量や図形、図形や文字などへの関心・感覚 ●言葉による伝え合い（保育士・友達と心を通わせる中で絵本などに親しみながら豊かな言葉・表現を身に付ける、聞いたことを言葉で伝える、相手の話を聞く、言葉による伝え合いを楽しむ）
	<b>表現</b>	・保育者と一緒に歌や手遊びを楽しむ。 ・歌に合わせて体を動かしたり、簡単な体操をしたりすることを楽しむ。 ・クレヨンで点や線、図り書きをする。	・保育者や友達と一緒に体を動かすことや音楽を聴きながら踊ることを楽しむ。 ・クレヨンや絵の具遊びを通して、季節の制作を楽しんで作り、達成感を知る。	・友達との関わりが増え、気の合う友達と同じ場で見立て、つもり遊びをすることを喜ぶ。	・行事を通して新しいことに挑戦する楽しさ、難しさを感じながら達成感を味わう。 ・友達と一緒に音楽に合わせて楽器を鳴らしたり体を動かしたりして楽しむ。	・季節の歌や手遊び歌を楽しむ。 ・体験したことを自分で感じたことなどを指したり描いたり。 ・描いたり作ったりすることを楽しみ、イメージを膨らませて自分なりに表現する。	・絵本や物語などに親しみ、想像する楽しさを味わいながら、興味・関心を持って聞く。 ・材料や用具を目的に合わせて選び、友達と一緒に伸び伸びと表現する。	●豊かな感性と表現（自分が感じたことを自分なりに表そうとする、表現することが好きになる）
<b>食育</b>	・毎日決まった場所でミルクを飲んだり、離乳食を食べたりする。 ・様々な食材を食べ、食感や味に慣れている。	・手づかみや食器を使って食べようとする際、必要に応じて援助する。 ・保育者が見守り、アレルギー児も友達と楽しく食事ができるようにする。 ・アレルギー児の保護者の気持ちを受け止めながら連携を図り対応する。	・季節に合った食材を知り、給食を楽しむながら食べられるようになる。	・食べ物ができるまで関わってきた人達に感謝の気持ちを持つ。 ・保育者と一緒に給食の準備や片付けをする。 ・絵本を見たり遊びを通して季節の身に付ける。	・食事のマナー（挨拶、姿勢、片付け、箸の使い方）を知り、楽しく食べる。 ・季節の行事やいろいろな伝統食を知る。	・食材の旬や栄養を知り、興味を高める。	保育指針（第3章「健康及び安全」 2「食育の推進」）より ●「食を営む力」の基礎を培うことを目標とする ●食べることを楽しむ、食事を楽しみ合う子どもにも成長していることが期待されている ●子どもと調理員との関わり、感謝の気持ち ●一人一人の子どもの心身の状態等（体調不良、食物アレルギー、障害のある子どもなど）に適切に対応する	
<b>健康支援・管理</b>	嘱託医による内科健診（年2回） 歯科健診（年1回）、身体測定（毎月）、日々の健康状態の視診、食育の推進、保健指導（手洗い・うがい、歯磨き）、保健だより・献立表の発行、食アレルギー対応（除去食等）、感染症の予防・対応							
<b>環境・衛生管理</b>	園舎内・園庭の清掃、0・1歳児の玩具の洗浄・消毒（毎日）、敷きパット・マットの洗浄、砂場の点検・清掃（毎日）、プール水質管理（7・8月）、職員検便（毎月）、職員健康診断、感染症の早期発見・予防（対応マニュアル）、衛生管理マニュアル							
<b>事故防止・安全対策</b>	避難訓練（火災・地震：毎月、総合訓練：年2回）、消防設備等点検（総合年1回・機器年2回）、自主点検（日常点検・定期点検）、非常時備蓄品の確保・点検、建物設備総合検査（年1回）、救急救命講習（全職員）、ヒヤリハット報告・対応、事故記録簿、虐待マニュアル、安全マニュアル							
<b>子育て支援</b>	園だより・クラスだよりの発行（毎月）、保護者会（各クラス年2回）、個人面談（適宜）、情報紙掲示、発達支援巡回相談、関係機関（市児童発達支援センター等）との連携、連絡帳による情報交換（0・1・2歳児、毎日）、高齢者との交流、ホワイトボードによる連絡							
<b>職員の研修</b>	職員育成（キャリアアップ）計画に基づく研修、OJT、職場内研修（全体研修～児童虐待対応、救急救命講習、保護者支援・子育て支援、食育・アレルギー対応）、外部研修、グループ会議・ケース会議							
<b>小学校との接続・連携</b>	川越市幼保小連携研修会への参加、「保育要録」の作成・情報交換、園々間小との連携（児童と園児の交流、施設の利用）							
<b>自己評価</b>	年間計画の作成と評価、職員育成評価、自己評価シートによる自己評価及び園長・理事長による評価							